# 令和元年年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果【大阪市の概要】要旨

### 1 全国の体力等調査結果のポイント

○平成 20 年度の調査開始以降の推移をみると、令和元年度は小・中学生の男女ともに低下した。小・中学生ともに、女子よりも男子が大きく低下しており、特に、小学生男子は過去最低の数値であった。国は、主な背景として、①授業以外での運動時間の減少、②テレビ、スマートフォンなどを視聴する時間いわゆるスクリーンタイムの増加、③肥満である児童生徒の増加、④朝食を食べない児童の増加を挙げている。

# 2 体力合計点における経年比較





(※グラフ中の点線は、大阪市教育振興基本計画における 2020 年度末までの目標値)





○体力合計点における経年比較について考察すれば、全国平均値との差はあるものの、概ね全国平均値と同様の傾向を示している。しかしながら、対全国比における経年比較については、中学校男子を除いて全国平均値との差が縮まっている。

## 3 1週間の総運動時間の分布

○全国の分布と比較して、60 分未満の児童・生徒の割合は、小・中学校で男女ともに高い。また、中学校においては、全国と同様に二極化が見られた。また、1 週間の総運動時間が 60 分未満の児童・生徒は、中学校男子を除いて昨年度の大阪市よりも改善が見られた。しかし、小学校女子を除いて420 分以上の運動をしている児童・生徒の割合も減少している。

### 4 質問紙調査

### (1) 授業の工夫改善

○小学校では、児童質問紙において、体育の授業が「楽しい」「たくさん動く」、体育の授業で「目標が示されている」「振り返っている」「助け合い、役割果たす」「話し合う」活動をしている割合が全国と比べて低い。また、学校質問紙において、体育の授業で「目標が示されている」「振り返っている」「助け合い、役割果たす」「話し合う」活動を、積極的に取り入れている割合が全国と比べて低い。

- ○中学校では、生徒質問紙において、体育の授業が「楽しい」「たくさん動く」、体育の授業で「目標が示されている」「振り返っている」「助け合い、役割果たす」「話し合う」活動をしている割合が全国と比べて低い。また、学校質問紙において、体育の授業で「目標が示されている」「振り返っている」「助け合い、役割果たす」「話し合う」活動を、いつも取り入れている割合が全国と比べて低い。
- ○以上のことから、授業における動機づけや工夫及び運動量の確保等に取り組んでいる教員の割合が、 全国と比べて低いことから、さらなる授業における工夫改善に取り組む必要がある。

## (2) 授業以外での取組

- ○小学校では、児童質問紙において、「運動部やスポーツクラブへの所属」や「放課後や休日に運動部やスポーツクラブ以外での運動」をしている割合が全国と比べて低い。一方、学校質問紙において、「体力向上に係る取組」や「教員の検討機会」、「地域家庭への呼びかけ」を行っている割合は全国と比べて高い。
- ○中学校では、生徒質問紙において、「運動部やスポーツクラブへの所属」や「放課後や休日に運動部やスポーツクラブ以外での運動」をしている割合が全国と比べて低い。一方、学校質問紙において、「体力向上に係る取組」や「教員の検討機会」について取り組んでいる割合は全国と比べて高い。
- ○以上のことから、教員の体力向上への取組については、全国と比べて取り組んでいる割合が高くなっているが、児童生徒が学校以外で運動する機会が少なく、継続的に運動に取り組むことが難しい状況が推測される。

## 5 今後の取組

- (1) 調査結果より見えてきた課題への取組
- ①運動機会の増加
  - ・授業において、運動量を確保する工夫についての指導
  - ・運動や活動にあたり、意欲を向上させるような導入方法の検討
  - ・区と連携するなどし、運動やスポーツに親しむ機会の提供
- ②小学校教員を対象に、「新体力テスト」における、正しい実施等についての研修会を開催
- ③教員の指導力向上に向けた研修会の開催
- ④[新体力テスト]の実施及び測定方法の徹底並びに実施に当たっての助言
  - ・「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」【大阪市の結果】説明会の開催
  - ・令和2年度から、小学校4年生についても「新体力テスト」を実施。5年生の取組への継続
  - ・課題を共有し、「学校の目標値」の明確化に取り組み、児童生徒に意識化させる
  - ・「新体力テスト」の実施にあたり、補助のための学生ボランティアを募る

### (2) 教育委員会の取組

- ①子どもの体力づくり強化プラン
  - ・「体力」の意義、考え方を追加
  - ・具体的な取組を示し、プランに基づいた取組を推進
- ②リーフレット「いっしょにのばそう!子どもの体力」
  - ・学校から保護者に配付
  - 区のホームページにも掲載

# 令和元年度 全国体力・運動能力運動習慣等調査の結果のポイントについて

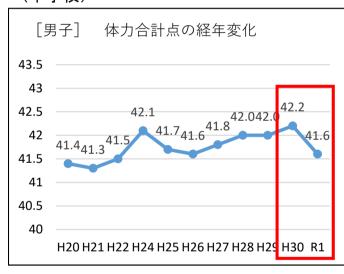
平成20年度の調査開始以降の推移をみると、令和元年度は小・中学生の男女ともに低下した。小・中学生ともに、女子よりも男子が大きく低下しており、特に、小学生男子は過去最低の数値であった。

# (小学校)





# (中学校)





# 主な背景

○授業以外の運動時間の減少 ⇒ 1週間の運動時間が420分以上の割合が、

小・中学生とも減少。

○スクリーンタイムの増加 ⇒ 小・中学生とも増加しており、特に男子

が長時間化している。

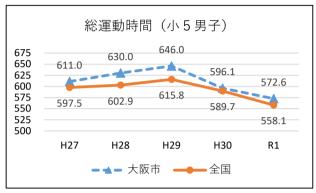
○肥満である児童生徒の増加 ⇒ 小・中学生ともに増加。

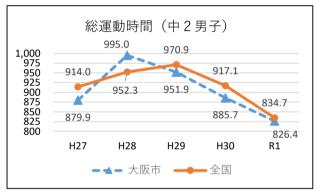
○朝食を食べない児童の増加 ⇒ 小学生が増加。ただし、中学生は変化なし。

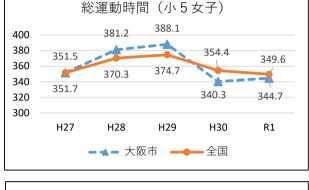
# 大阪市の児童生徒における生活習慣の変化(平成27年度より5年間)

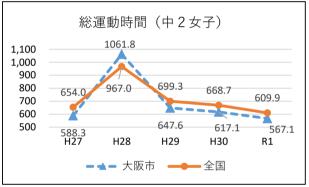
- ●朝食を毎日食べる習慣の低下(中学生になるとより大きく低下する)
- ●平日の1日にテレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコン等の画面を見る時間の増加
- ●1週間の総運動時間の減少(小5男子は全国平均を上回っている)
- ●肥満傾向の児童生徒の出現率の増加(中2女子は横ばい傾向)

#### 1週間の総運動時間について

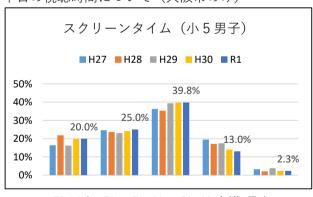




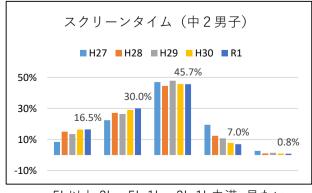




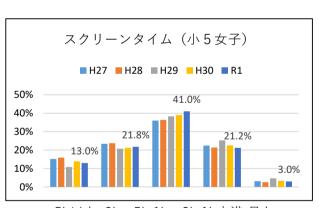
# 平日の視聴時間について(大阪市のみ)



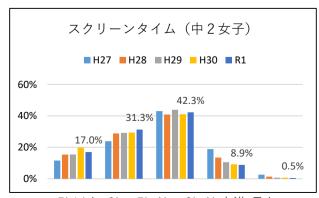
5h以上 3h~5h 1h~3h 1h未満 見ない



5h以上 3h~5h 1h~3h 1h未満 見ない

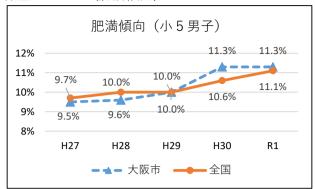


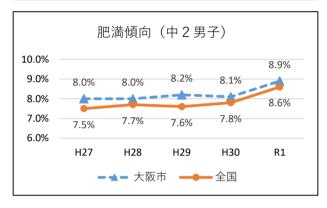
5h以上 3h~5h 1h~3h 1h未満 見ない

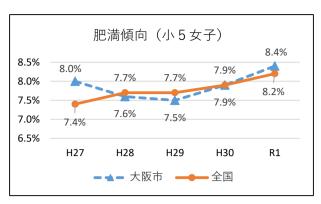


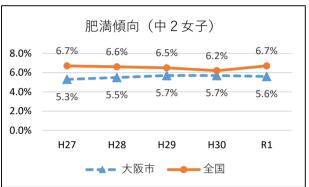
5h以上 3h~5h 1h~3h 1h未満 見ない

### 体型について (肥満傾向)









# 朝食について(毎日食べる)

